

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

Vol. 33, No. 4 ACTA UROLOGICA JAPONICA April 1987

泌尿器科紀要

第33巻 第4号 1987年4月

担癌生体のリンパ節の臨床病理学的検討 —とくに Sinus reaction について—	安本 亮二・ほか	487
原発性アルドステロン症43例に関する臨床的検討 —局在診断法と手術法の変遷—	高羽 津・ほか	491
腎移植患者における Natural Cell-Mediated Cytotoxicity の検討	平林 聡・ほか	501
腎細胞癌の治療 第3報: インターフェロン療法	小林 幹男・ほか	508
尿管瘻に対する保存的治療(英文)	竹内 敏視・ほか	515
男子高齢者の排尿障害に関する研究 第3報: 波型および尿流量率より 見た小児, 若年成人, 一般中高年者の尿流量曲線の比較	清水 嘉門・ほか	521
小児原発性膀胱尿管逆流の臨床的検討	丸山 良夫・ほか	527
膀胱腫瘍における膜抗原の検討—ABH isoantigen と Thomsen-Friedenreich antigen について—	小林 弘明	535
同胞にみられた Reifenstein 症候群	菅尾 英木・ほか	545
精液中免疫抑制物質の研究	内島 豊・ほか	551
副甲状腺(上皮小体)癌の1例	松宮 清美・ほか	556
腎血管筋脂肪腫の2例	滝 洋二・ほか	562
石灰化を伴った巨大水腎症の1例	阿部 俊和・ほか	568
転移性腎腫瘍の3例 —本邦報告38例を含む136例の統計的考察—	前田 修・ほか	572
CTにて偶然発見された腎細胞癌の4例	古田 秀勝・ほか	579
多房性腎嚢胞に腎細胞癌を合併した2例	五島 明彦・ほか	585
外傷が発症原因と考えられた黄色肉芽腫性腎盂腎炎の1例	村山 和夫・ほか	592
後腹膜線維症の1例	堀内 和孝・ほか	596
S状結腸憩室炎に起因した結腸膀胱瘻の1例	米田 尚生・ほか	600
尿道に発生した尖圭コンジロームの1治療例	鈴木 孝憲・ほか	605
Mixed gonadal dysgenesis に発生した seminoma の1例	守屋 昭・ほか	609
傍辜丸横紋筋肉腫の2例	瀬口 利信・ほか	617
陰嚢内横紋筋肉腫の1例	横関 秀明・ほか	625
自動間歇排尿装置(Bladder Assist Device)の有用性について	竹内 秀雄・ほか	629
尿路におけるテルモ社製ガイドワイヤーの使用経験	鈴木 孝治・ほか	638

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Kyoto Japan 606
京都大学医学部泌尿器科学教室

購 読 要 項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料8,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投 稿 規 定 (1986年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員(年間購読者)に限る。
 2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文5頁(400字×20枚程度)、図(Fig.)10枚、表(Table)10枚までとする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書(ワープロ可)、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。年号は西暦とする。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプ(手書き不可)する。
 - (4) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名、著者名の順に和文で併記する。下段に筆頭著者名と、2語からなる running title を付す。
例：山田・ほか：前立腺がん・PSAP
 - (4) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、主任名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文の順にB5版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。
 - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、主任名、Key words(和文に準ず)、running title(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録の順に記した和文抄録を付す。
 - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, $^{\circ}$ C などとする。
 - (5) 和文、英文原稿を問わず図、表、写真などは各々台紙に添付し、それらに対する説明文は別紙に一括して Fig. 1 ..., Fig. 2 ..., Table 3 ... などと記載する。説明文は英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリ
 3. 掲載
 - (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
 - (2) 紙代、印刷費、製本代は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後に行なう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機具の使用などに関する研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。
 4. 別刷：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

宮崎 重	新谷 浩
吉田 修(主幹)	
- ミングし、図・表は誤りのないことを確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい(コピー不可)。様式については本誌の図・表を参照する。
- (6) 引用文献は必要最少限にとどめ、引用箇所本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。
(例：山田^{1,3,7)}、田中^{1,3-10)}によると)
- 雑誌の場合—著者名(全員)：題名。雑誌名
巻：最初頁～最終頁、発行年
単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
- (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
- (8) 投稿原稿は編集委員会においてその採否を決定し、それに従って編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。
- (9) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部が行なう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。